

インターバンクの声（2015年9月28日）

イエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の前日の講演での「年内に利上げするのが適切」発言に続き、金曜日にも4-6月期の実質GDP確定値が上方修正されたり個人消費、ミシガン大学消費者信頼感指数などの経済指標が市場予想を上回る結果となった。このため市場のドル買い反応はニューヨーク市場終盤まで続くものと思っていたが、途中からの米国債利回りの低下や株価の急な値下がりもあってか、ドルは全般にニューヨーク市場の朝時点よりも弱い水準で一週間の取引を終えた。ドル円が121円台、ユーロが1.11ドル前後、そして豪ドルが0.69ドル台にまではドル買いが進むのだが、この一か月間はこれらのレベルが主要通貨の壁となっている。米国訪問中の習近平主席とオバマ大統領との会談から今のところ金融市場を揺るがすような内容は伝わって来ないが、今週は中国の製造業PMIや米雇用統計といった主要経済指標の発表も予定されており、そろそろ久々となる水準に相場が移行する頃なのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。